

～だいず、野菜類及び花き類 ハスモンヨトウの発生に注意～

フェロモントラップへの雄成虫誘殺数の増加は、平年より早くなっています

- (1) 今年度のフェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は、**7月第6半旬から8月第1半旬にかけて急増**しています(図1)。
- (2) すでに誘殺数が多くなっているので、ほ場での発生に注意し、白変葉などの被害や幼虫の発生を確認したら、直ちに防除してください。また、次世代も多発することが予想されますので、今後の情報に注意してください。
- (3) **防除適期は雄成虫の誘殺ピークの7～10日後**が目安です。

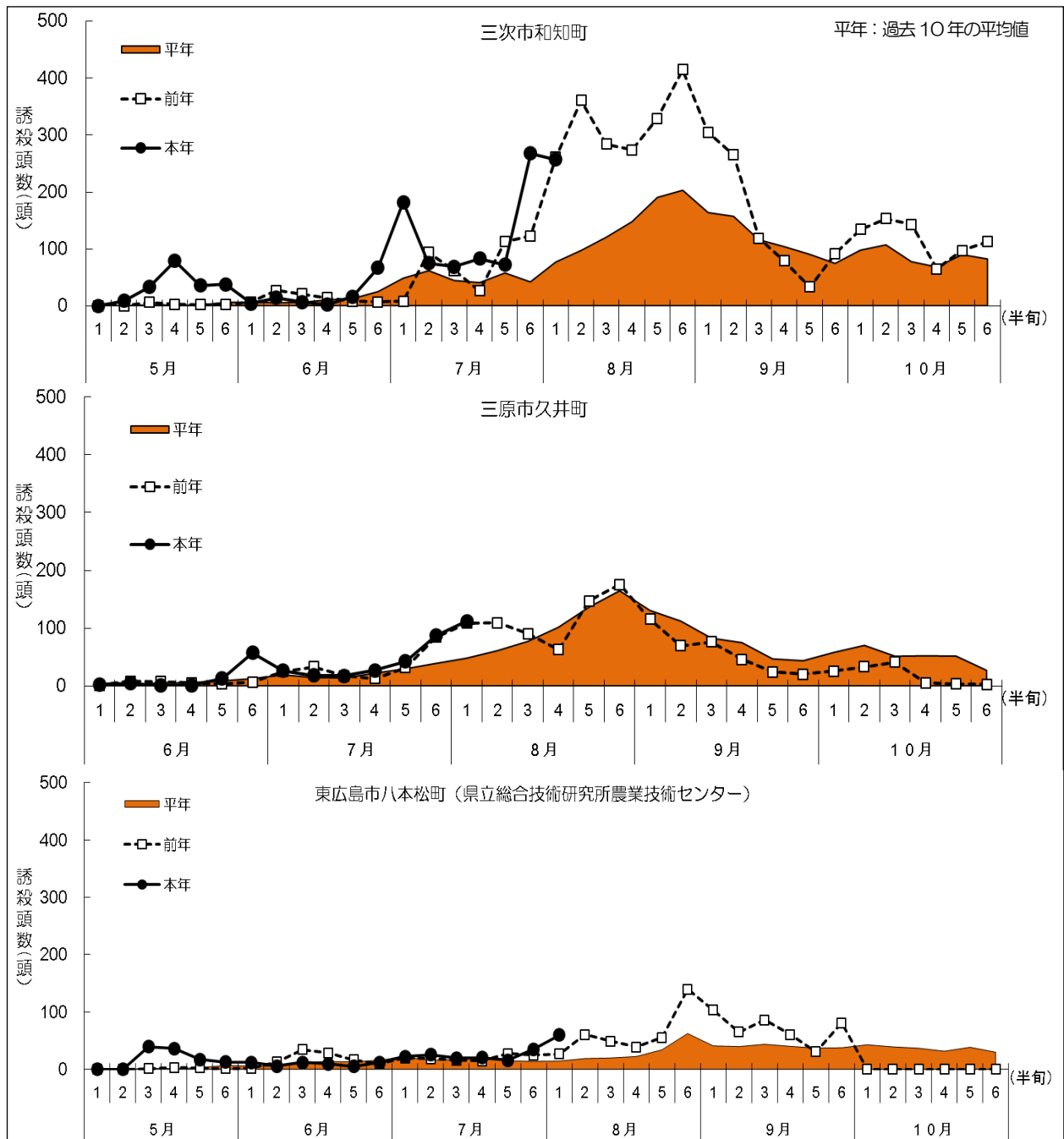


図1 県内各地におけるフェロモントラップへの雄成虫誘殺数の推移

ほ場をよく確認し、卵塊や幼虫の発生に注意しましょう

- (1) **幼虫の発生量は、立地条件やこれまでの防除により大きく異なるため、必ずほ場での発生状況を確認**しましょう。
- (2) ハスモンヨトウは卵を塊で産み、**卵塊は葉の裏側に見られます。アスパラガスでは擬葉が重なり合っ**て**見つけにくいので、よく確認**しましょう。施設栽培では、支柱やビニールなどに産卵することもあるので注意が必要です。
- (3) 卵塊からふ化した幼虫は1か所に集中し、集団で葉の表皮を残して食害するため、**若齢幼虫期の加害は卵塊周辺に集中**します(図2及び図3)。その後、中齢幼虫に成長すると他の葉などへ移動、分散し始め、被害がほ場全体へ拡大していきます。**幼虫がほ場全体へ移動する前の若齢幼虫期が、防除適期**になります。
- (4) だいずやなすでは、卵塊や白変葉(※)を認めたら卵塊、若齢幼虫を含めて葉ごと除去し、ほ場外で処分しましょう。
※白変葉:若齢幼虫が、葉の表皮を残して食害することにより、白く透けて見える葉(図3及び図4)
- (5) 老齢幼虫期(図5)になると薬剤が効きにくくなるため、**防除は若齢幼虫期**に行いましょう。
- (6) 薬剤抵抗性回避のため、**異なる作用機構の薬剤をローテーション散布**しましょう。
- (7) 薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。周辺作物への飛散防止対策を行い、収穫時期が近い作物がある場合などは、特に注意しましょう。



図2 葉裏の卵塊とふ化幼虫



図3 若齢幼虫の集団加害(葉裏)



図4 若中齢幼虫による白変葉



図5 老齢幼虫(薬剤が効きにくい)

〇お問合せ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
東広島市八本松町原 6869
TEL : 082-420-9662 (直通)



広島県 植物防疫

検索

